

編集後記

機関誌第11号を発行する運びとなった。編集委員、レフェリー他関係者の皆様に多大なるご協力を頂き、心より御礼申し上げたい。

今回、編集委員会の最終決定により採用となった論文は、①「医療用医薬品の流通に関する研究」（井上 正氏）、②「Economic Evaluation of Female Hormone Replacement Therapy for Osteoporosis and Fractures in Elderly Women」（赤水 尚史氏）、③「革新的医薬品に対する薬価算定方式としての原価計算方式の妥当性に関する経済分析」（中村 洋氏）の3本である。いずれも編集委員会およびレフェリーによる厳しい審査をクリアした論文であるだけに、実証的であり、政策研究論文として高く評価できると労作と考える。昨年より医療制度改革議論が活発に続けられている中で、薬価制度や診療報酬体系のあり方に関する議論の参考資料としてもお役に立てることを期待する。また、残念ながら採用には至らなかった4本の投稿論文も高い水準のものであり、次号以降への採用に向けての奮起を期待したい。

医療経済研究機構が行った代表的プロジェクトをまとめて報告する研究報告では、「介護保険施設における個室化とユニットケアに関する研究」をとり上げた。本研究報告は、この研究会の座長を勤められた京都大学大学院工学研究科の外山 義教授にお願いした。

介護保険制度導入から2年が経過し、利用者からの施設志向の高まりが多く報告されている中で、個室化、ユニットケアの有効性を検証し、多くのデータによって実証的に“終の棲家”としてふさわしい介護保険施設の整備の方向性を示している秀作である。本研究が、介護保険施設の設置・運営を検討している事業者や、事業者を指導する立場にある都道府県担当者の介護サービスの手引きとして活用されることを期待している。外山教授のご協力に心より感謝申し上げたい。

編集事務局としては、本機関誌が医療政策議論の参考文献としてお役に立ち、ヘルスケアサービスの更なる向上と医療政策の発展に寄与できるよう願っている。今後とも各方面のご支援、ご指導を切にお願い申し上げたい。

（編集事務局代表 岡部 陽二）